

## 緊急調査結果の概要

緊急調査は以下の流れで実施しています。

( 1 ) 降灰調査 ( 平成 23 年 1 月 27 日 ~ 29 日 )

ヘリコプターによる上空からの調査により降灰範囲を確認し、地上調査により 128 地点で降灰状況を調査し、1月29日時点での降灰分布と降灰量 ( 堆積重量から換算した層厚 ) を把握しました ( 別紙 - 3 )。

( 2 ) 降灰により土石流による被害のおそれが高まっている土石流危険渓流の抽出 ( 1 月 30 日 )

降灰調査による降灰分布に基づき、噴火により、土石流危険渓流の流域のおおむね 5 割以上の面積で、火山灰が 1 c m 以上の厚さで堆積していると推計される土石流危険渓流を抽出しました ( 別紙 - 4 )。

( 3 ) 降灰により土石流による被害のおそれが高まっている土石流危険渓流の想定氾濫区域の解析 ( 1 月 31 日 ~ 2 月 3 日 )

抽出された土石流による被害のおそれが高まっている土石流危険渓流において、数値氾濫シミュレーションにより土石流の氾濫によって被害がおこるおそれのある区域を解析しました ( 別紙 - 5 )。

( 4 ) 避難のための参考となる雨量基準

噴火後に土石流を発生させた過去の降雨データを参考とすると、4 m m / h 以上の強度の降雨が予測される際には、( 2 ) で抽出された土石流発生のおそれの高い渓流においては土石流の発生が切迫していると判断されることから、避難勧告等を発する上での参考にして下さい ( 別紙 - 6 )。

なお、雨量基準については、今後の降雨と土石流の発生実績に応じて見直しを行う予定としています。

なお、上記以外の、降灰調査の結果、降灰厚さが 1 c m 未満の範囲内に位置する土石流危険渓流においても、通常の降雨量より少ない降雨により土石流が発生するおそれがあります。